

韓国キリスト者に送る書簡

主イエス・キリストの証しのわざの故に、未曾有の苦難の只中に身を置きながら、なお主にある喜びのうち私たち日本のキリスト者に対して、共同の戦いへの参加を呼びかけ続けて来られた、韓国の兄弟姉妹たち、

1973年の「人権宣言」を始めとして「民主救国宣言」「労働者人権宣言」「民主救国憲章」などによって、人権回復への戦いを続けておられるあなたたちの言葉と行いと、私たち日本のキリスト者を含めて、多くの人々の心をとらえ、しっかりと根を下しつつあります。

そればかりでなく、戦前の他国他民族を抑圧した軍国主義時代の体質を温存した者たちによって推進されつつある靖国神社国営化の動きに対し、抵抗を続けている私たちに、また高度経済成長の下で企業の人権軽視の結果である公害問題等と戦っている私たちに、力強い支えとなっているのです。

歴史の主は、あなたたちの戦いを通して今こそ私たちに、

「あなたは、自分は富んでいる。豊かになった、なんの不自由もないと言っているが、実は、あなた自身がみじめな者、あわれむべき者、貧しい者、目の見えない者、裸な者であることに気がついていない」

と、語りかけている黙示録3章17節の言を、心の底から明らかに読みとることを可能にして下さいます。

この言に押し出されて、私たちもまた日本民衆の人権への戦いに参加する勇氣と喜びとを与えられているのです。

ここに第31回年次総会にあたり、テサロニケ人への第二の手紙2章16、17節の祝禱と共に心からなる連帯の書簡を送ります。

祝禱

「どうか、わたしたちの主イエス・キリストご自身と、わたしたちを愛し、恵みをもって永遠の慰めと確かな望みとを賜わるわたしたちの父なる神とが、あなたがたの心を励まし、あなたがたを強めて、すべての良いわざを行い、正しい言葉を語る者として下さるよう。」

1977年 日本バプテスト連盟

第31回年次総会出席代議員一同